



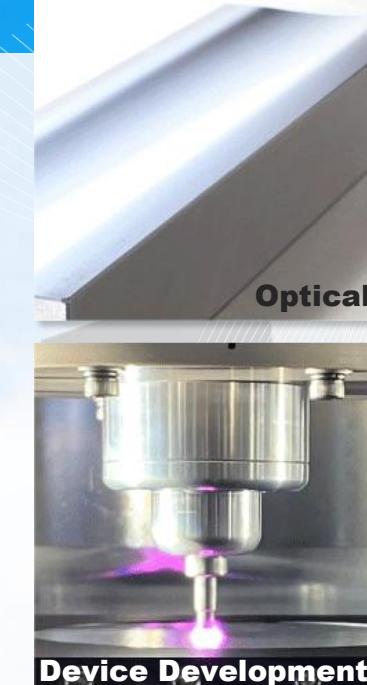
2026年6月期 第2四半期

決算説明資料

2026年2月13日

証券コード 3446

株式会社ジェイテックコーポレーション
<https://j-tec.co.jp>



Optical



Life Science



ESCO, Ltd.

01 ビジネスセグメント

02 2026/6期 2Q 業績

03 2026/6期 業績見通し

INDEX
—
01

ビジネスセグメント

ビジネスセグメント



2026 / 6期2Q業績

2026/6期2Q 決算：損益状況

- 予算には到達していないものの、前年同期比で売上高増
- 売上総利益率は改善、オペティカルの生産性向上による利益増によって赤字幅縮小

損益状況（累計）							(百万円)
	2025/6期 2Q	2026/6期 2Q	前年同期比		2026/6期 2Q予算 (2025/8/13)	予算比	
	実績	実績	増減額	増減率		増減額	増減率
売上高	564	646	81	14.5%	683	-37	-5.4%
売上総利益	326	394	67	20.8%	436	-42	-9.8%
売上総利益率	57.8%	61.0%	+3.2pts		63.9%	-2.9pts	
営業利益	-214	-193	20	—	-296	103	—
営業利益率	-37.9%	-29.9%	+8.0pts		-43.4%	+13.5pts	
経常利益	-228	-186	41	—	-298	111	—
経常利益率	-40.5%	-28.9%	+11.5pts		-43.7%	+14.8pts	
税引前利益	-228	-185	43	—	-298	113	—
当期純利益	-168	-138	30	—	-214	76	—
当期純利益率	-29.8%	-21.4%	+8.5pts		-31.4%	+10.0pts	

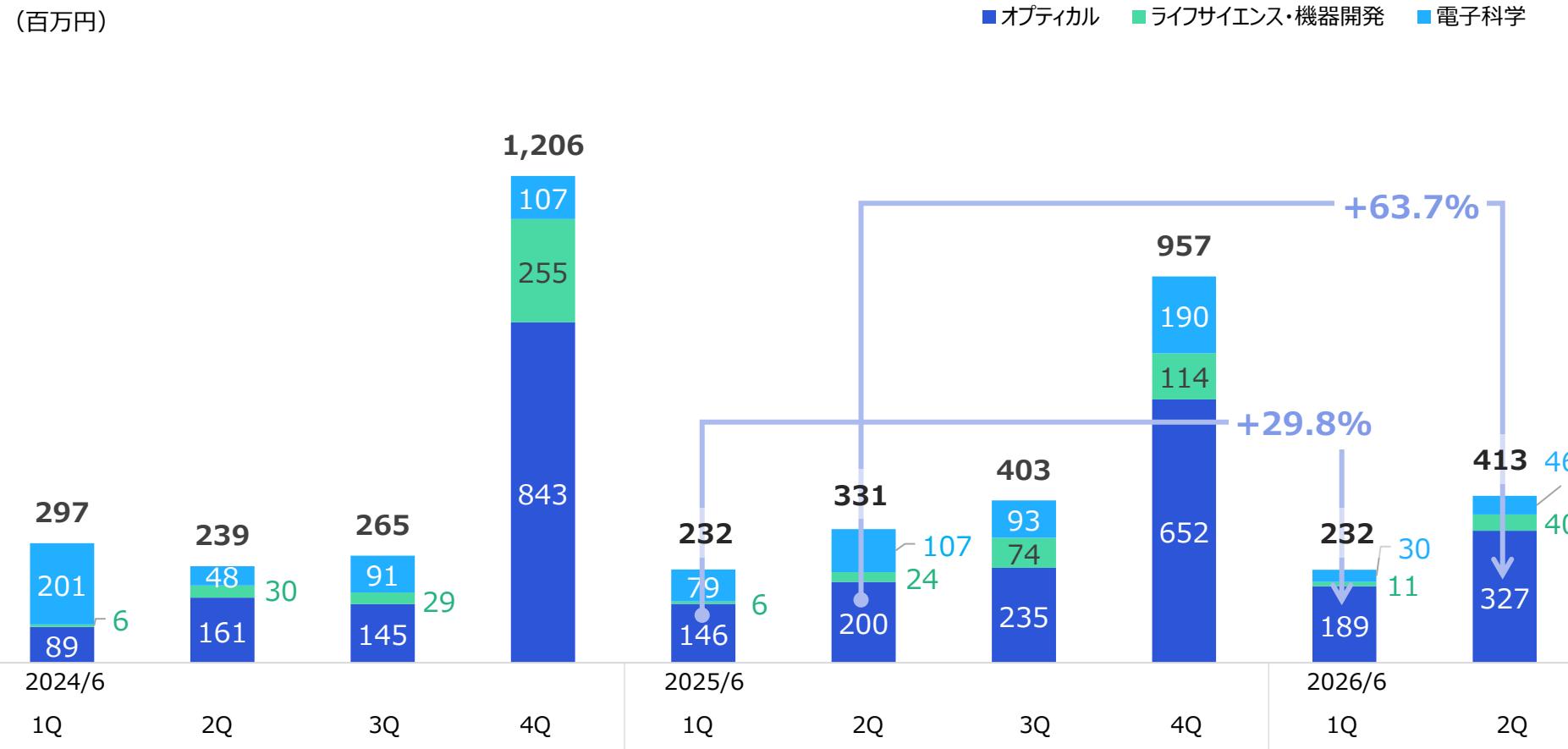
2026/6期2Q 決算：四半期ごとの業績推移

- 2Qは前年同期比で增收、採算の良い高精度ミラーが寄与し、売上総利益率は上昇
- 営業利益以下の利益は改善

	2025/6期				2026/6期							
	1Q		2Q		1Q		2Q		1Q/2Q比		前2Q/2Q比	
									増減額	増減率		
売上高	232	331	403	957	232	413	181	77.9%	81	24.7%		
売上総利益	153	172	247	604	149	244	95	63.6%	71	41.4%		
売上総利益率	65.9%	52.1%	61.4%	63.1%	64.3%	59.1%	-5.1pts		+7.0pts			
営業利益	-132	-81	-28	356	-172	-21	151	-	60	-		
営業利益率	-57.1%	-24.5%	-7.0%	37.2%	-74.0%	-5.1%	+68.9pts		+19.4pts			
経常利益	-147	-81	-28	359	-168	-17	150	-	63	-		
経常利益率	-63.3%	-24.4%	-7.2%	37.5%	-72.6%	-4.4%	+68.3pts		+20.1pts			
税引前四半期利益	-147	-81	-29	359	-167	-17	149	-	63	-		
四半期利益	-105	-62	-25	254	-120	-17	103	-	45	-		
四半期利益率	-45.4%	-19.0%	-6.4%	26.6%	-51.9%	-4.3%	+47.6pts		+14.7pts			

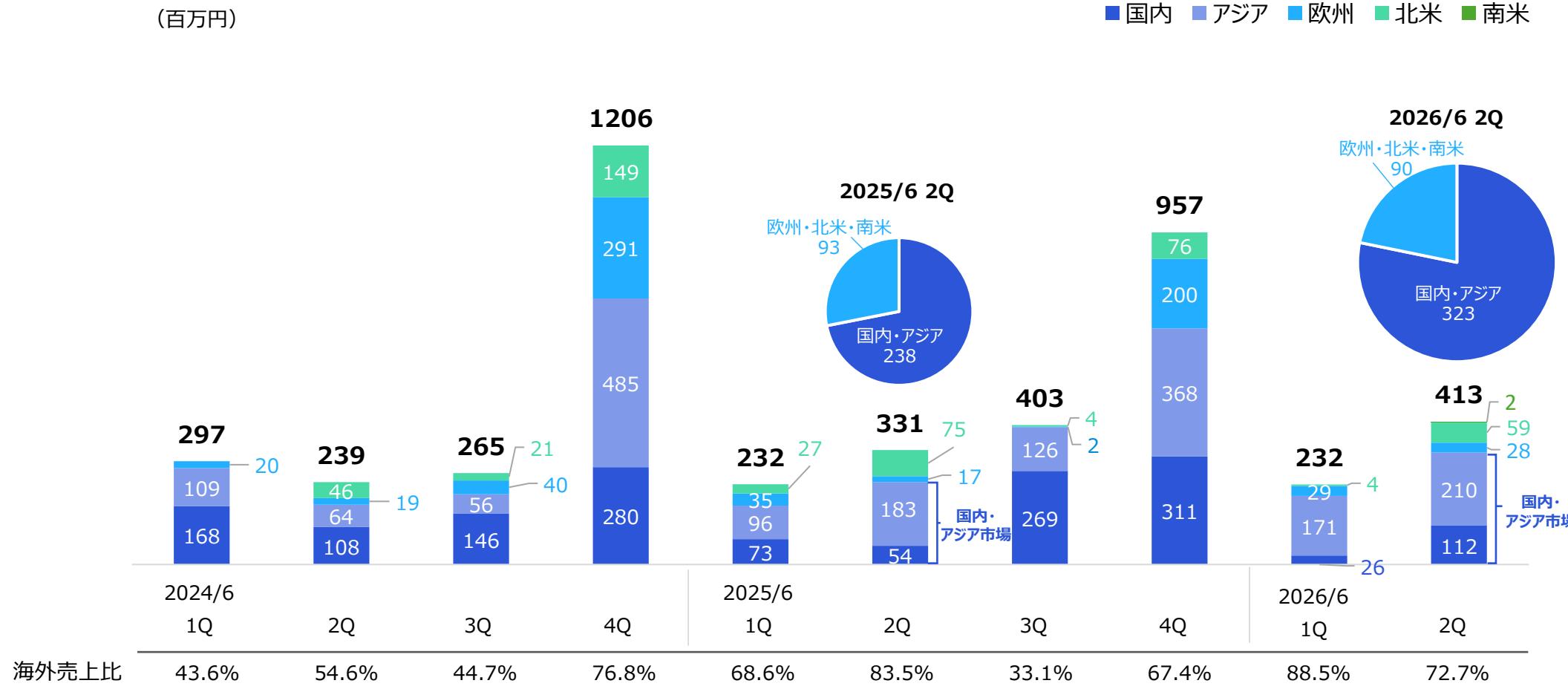
2026/6期2Q 決算：四半期ごとの業績推移 事業セグメント別

- オプティカルは生産性向上によって製造数が向上、1Q、2Qともに前年同期比で売上増
- ライフサイエンス・機器開発も前年同期の売上を上回る水準
- 電子科学はサービスと受託測定は堅調、主力装置の販売が苦戦



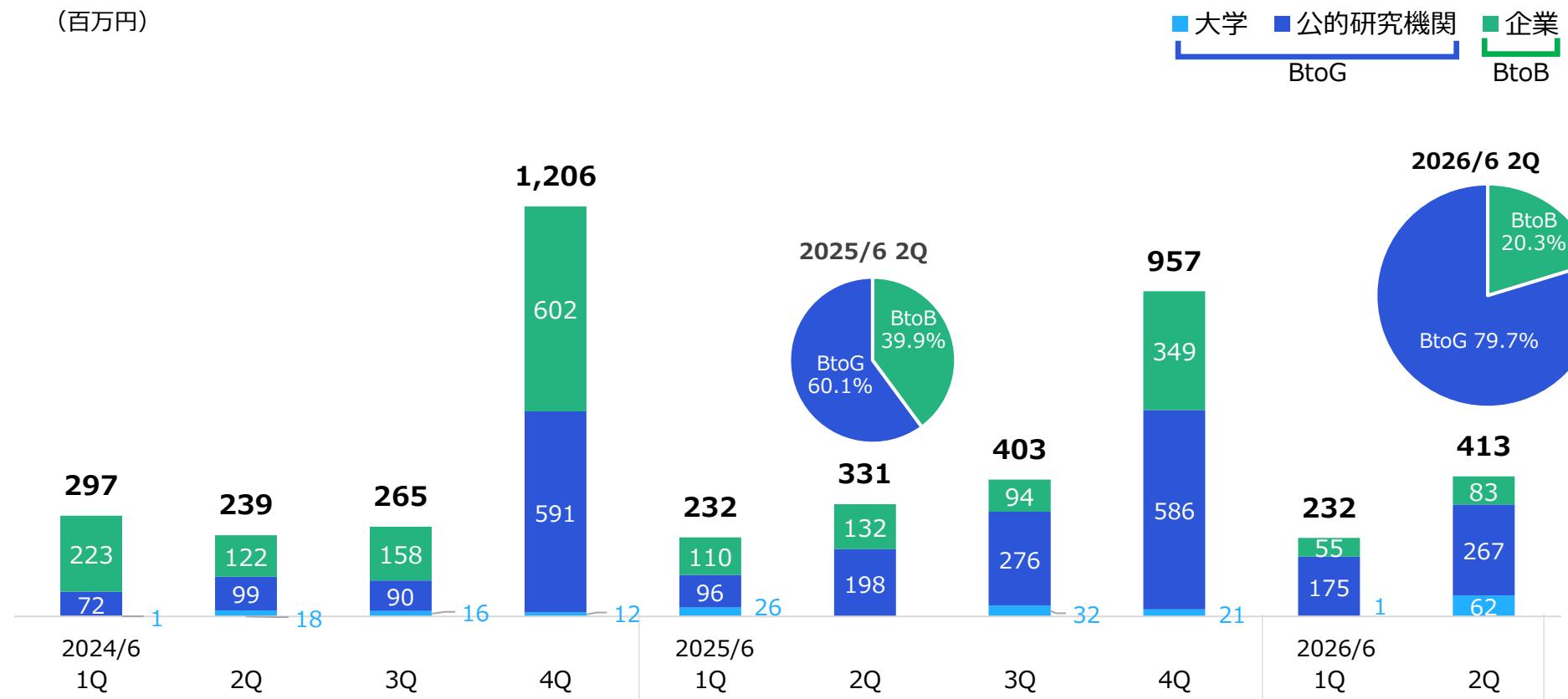
2026/6期2Q 決算：四半期ごとの業績推移 地域別

- オプティカルは国内・アジア市場、特に中国向けが前年同期比大幅増、欧州、北南米市場の売上も順調に推移



2026/6期2Q 決算：四半期ごとの業績推移 顧客属性別

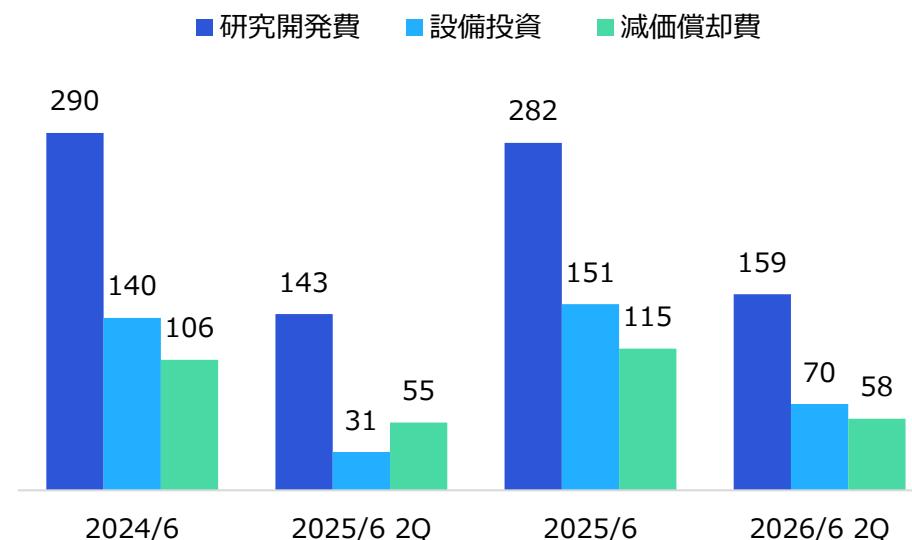
- オプティカル事業が売上の大部分を構成しており、B to G（大学+公的研究機関）が販売先の中心



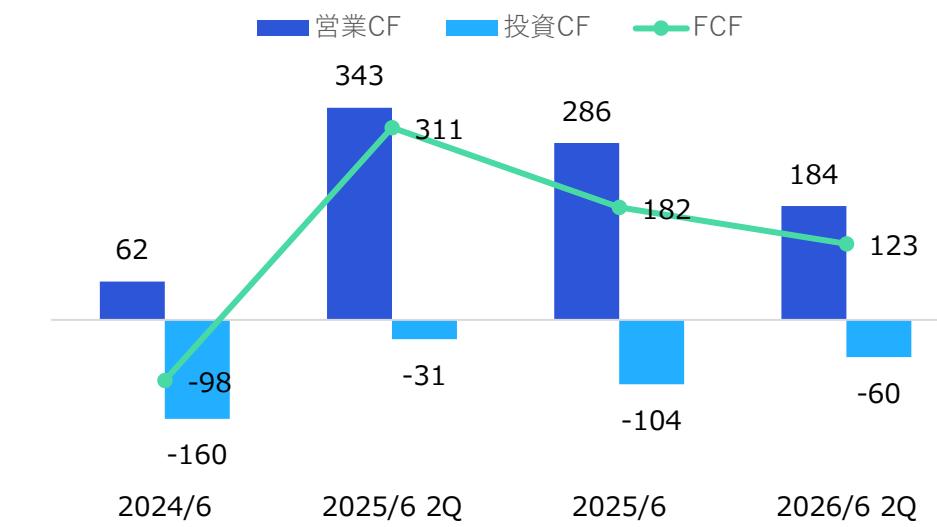
2026/6期2Q 決算：投資・キャッシュフロー

- 2Q累計の研究開発費は前年比アップ
- 売上債権の減少による収入増によってFCFはプラス

	投資等				(百万円)
	2024/6期	2025/6期2Q	2025/6月期	2026/6期2Q	
研究開発費	290	143	282	159	
売上高比率	14.4%	25.4%	14.7%	24.7%	
設備投資	140	31	151	70	
減価償却費	106	55	115	58	



	キャッシュフロー				(百万円)
	2024/6期	2025/6期2Q	2025/6期	2026/6期2Q	
営業CF	62	343	286	184	
投資CF	-160	-31	-104	-60	
FCF	-98	311	182	123	



2026/6期2Q 決算：財務の状況

	2025/6期 (連結)		2026/6期 2Q (連結)		増減
流動資産	1,939	52.6%	1,662	47.8%	-277
資産の部					
(現預金)	(712)	(19.3%)	(793)	(22.8%)	(80)
固定資産	1,748	47.4%	1,818	52.2%	70
(有形固定資産)	(1,377)	(37.4%)	(1,388)	(39.9%)	(10)
資産合計	3,688	100.0%	3,481	100.0%	-206
負債の部					
流動負債	493	13.4%	442	12.7%	-51
固定負債	419	11.4%	383	11.0%	-35
負債合計	912	24.7%	825	23.7%	-86
株主資本	2,775	75.3%	2,655	76.3%	-119
純資産の部					
(資本金)	(847)	(23.0%)	(856)	(24.6%)	(9)
(資本剰余金)	(807)	(21.9%)	(816)	(23.4%)	(9)
(利益剰余金)	(1,121)	(30.4%)	(983)	(28.3%)	(-138)
純資産合計	2,775	75.3%	2,655	76.3%	-119
負債純資産合計	3,688	100.0%	3,481	100.0%	-206

(百万円)

(百万円)

(百万円)

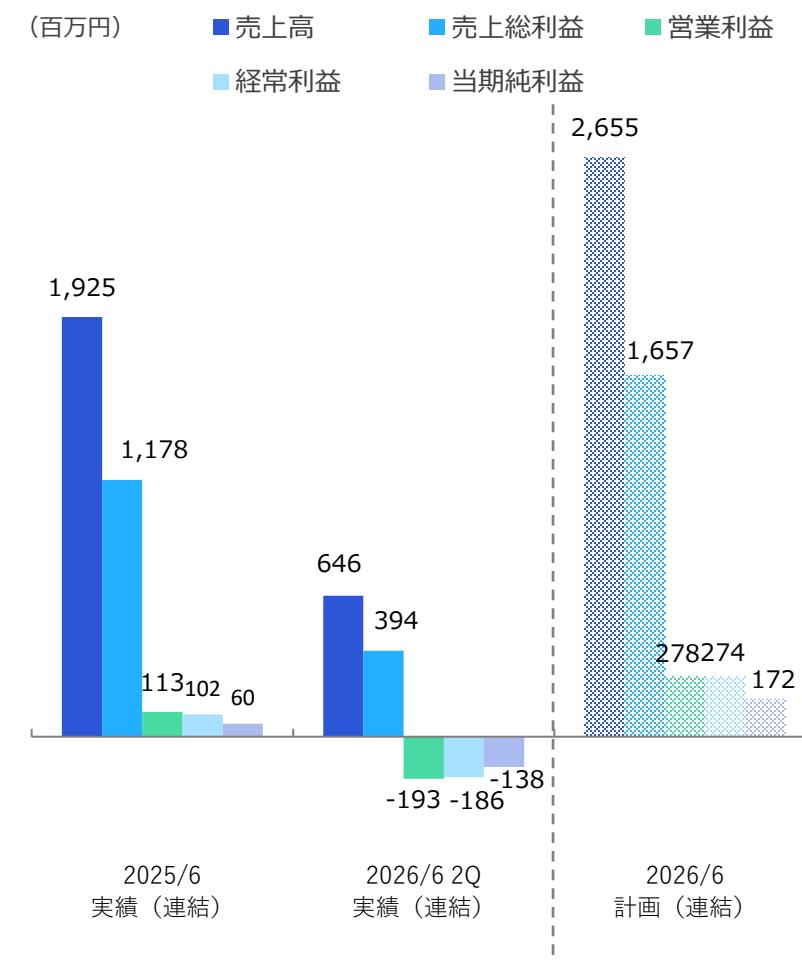
3,688負債
912純資産
2,775**3,481**負債
825純資産
2,6552025/6
(連結)2026/6 2Q
(連結)

2026 / 6期 業績見通し

2026/6期 業績見通し

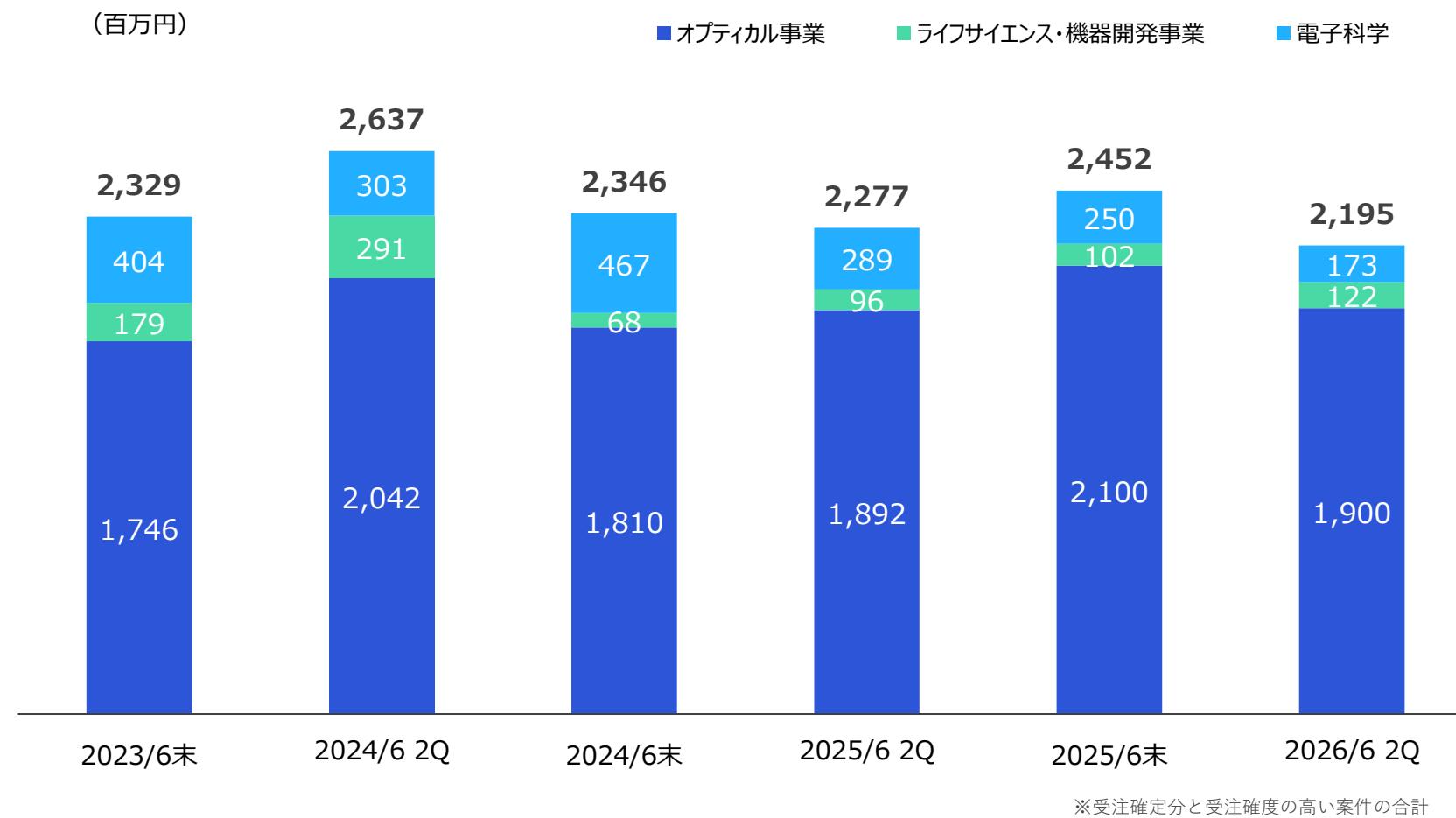
- 前年比、売上高37%、売上総利益40%増を見込んでおり、増収増益の見通し
- 売上高は当初計画に沿って下期偏重の見通し
- 研究開発投資の影響で増加する販管費を吸収し、前年同期比で利益は大幅増を見込む

	2025/6期 実績 (連結)	2026/6期 2Q実績 (連結)	2026/6期 計画 (連結)	進捗率
売上高	1,925	646	2,655	24.3%
売上総利益	1,178	394	1,657	23.8%
売上総利益率	61.2%	61.0%	62.4%	—
営業利益	113	-193	278	—
営業利益率	5.9%	-29.9%	10.5%	—
経常利益	102	-186	274	—
経常利益率	5.3%	-28.9%	10.3%	—
当期純利益	60	-138	172	—
当期純利益率	3.1%	-21.4%	6.5%	—



2026/6期2Q 受注残高の状況

- アジア市場の旺盛な受注を背景にオプティカルの更なる受注積み上げと次世代半導体向け装置の受注に期待



2026/6期 業績見通し：セグメント別見通しのサマリー、計画のポイント

		2026/6期 2Q実績 (連結)	2026/6期 計画 (連結)	進捗率
		(百万円)		
オプティカル	売上高	517	1,650	31.3%
	セグメント利益	184	725	25.5%
	セグメント利益率	35.8%	44.0%	
機器開発	売上高	22	404	5.6%
	セグメント利益	-39	48	-
	セグメント利益率	-	12.0%	
ライフサイエンス	売上高	29	91	32.2%
	セグメント利益	-23	3	-
	セグメント利益率	-	4.3%	
電子科学	売上高	76	510	15.1%
	セグメント利益	-70	45	-
	セグメント利益率	-	9.0%	
調整額	売上高	-	-	
	セグメント利益	-244	-544	
合計	売上高	646	2,655	24.3%
	営業利益	-193	278	-
	営業利益率	-	10.5%	

オプティカル事業

- アジア市場（中国、台湾、韓国）の受注が旺盛
- 日本や欧米にある複数の先端放射光施設がアップグレード進行中
- 半導体向け高精度光学部品の受注数増加
半導体・分析装置向け高機能レンズ（B to B）の受注が増加

機器開発事業

- プラズマCVM：水晶デバイス用ウェハ加工装置の小型機から大型自動機への展開と潜在市場の掘り起こし
- PAP®：プラズマ援用研磨法によるダイヤモンド基板の高速・高精度加工プロセスの確立と装置化の加速によるダイヤモンド加工市場への参入
- ECMP：イオン伝導性物質を用いた電気化学機械研磨法によるSiCウェハの高速研磨プロセスの確立とその装置化
- CARE：研磨パッドの長寿命化による装置の実用化の検討、早期に商品化へ

データセンター（AIサーバー）の需要増による、水晶デバイス（発信器）向けプラズマCVM、ダイヤモンド加工向けのPAP®引き合いが急増

ライフサイエンス事業

- 再生医療・創薬分野における働き方改革に寄与する「自動細胞培養装置」の市場拡大と「大型細胞培養自動化システム」の積極的な市場展開
複数の研究機関と製品開発に着手
- 研究機関や他企業との共同研究により開発に成功した幹細胞治療向けの幹細胞分離装置による脳梗塞治療および認知症治療（自由診療）への展開
- 独自の培養技術「CELLFLOAT」を用いた軟骨の再生医療は、現在東京大学等と研究開発を進め、2025年度から医師主導治験を開始**

電子科学

- 中国、米国、欧州の新市場開拓を行い、事業の拡大を図る
- AI技術に必要な、高度な半導体デバイスの生産・開発に対応した赤外線加熱型昇温脱離分析装置「ESCO-TDS1200 II IR」の受注が急務、今年度中に、高性能な温度測定機能を装備した新製品を販売開始
- 水素検出専用の分析装置「ESCO-TDS600 IR H2」や「ESCO-TDS-100 Cryo H2」を販売開始
- 分析業務の拡大



ご清聴ありがとうございました



JTEC CORPORATION

<https://www.j-tec.co.jp>